秋田大学教育文化学部附属小学校　校　報

はとの子だより

No.５　令和６年７月２２日（月）発行

学校教育目標　　自律　　のびのび　きびきび　わくわく

150年目に花ひらく説得の文化

創立 150 周年を記念したイベントが、６年生によって数々立ち上げられていることは、５月１５日に発行した第３号でも紹介したとおりです。

校長室や副校長室には、これまで何度も代表児童がプレゼンに訪れています。タブレット端末でスライドを作成したり大きな画用紙に考えをまとめたりと、方法はそれぞれですが大人を説得するためにできる限りのことをしているという点では皆共通しています。

その姿は、おそらく昨年度の６年生が、「はとの子の約束」の中にある朝のグラウンド利用の認可のためにプレゼンを行ったことの影響が色濃く反映しているのではないかと思う節があります。

新年度を迎えて間もない日、学年開きの集会にたまたま居合わせた際に、新６年生に向かって「創立 150 周年という大きな節目の年に最高学年となるなんていうことは、かなり幸運なことだよ。皆さんが主役になって何でもできるんだよ」と話したことが思い出されます。

今年の６年生は、いまのところ、その幸運を最大限に活かすためにただ提案するだけではなく、これまでの附属小学校よさを見つめ直し、自分たちの言動も捉え直しながら、何ができるか、そのために何が必要かをとても丁寧に考えているような印象を受けました。

ここまで、６年生が提案してきたことは「学校かくれんぼ及びテレビ出演要請」「イチゴ栽培及びジャムづくり」「逃走中実施」などです。どれも、なぜそれをやりたいのか、それにどんなよさがあるのか、それが自分たちの成長や学校の歴史にどのような利益をもたらすのか、そのために必要なことはなにか、などをしっかりと説明できていました。

「学校かくれんぼ」のテレビ出演申請については、大学からの認可も取り付ける必要があったため、広報課を通じて学長にプレゼンに行くという本校始まって以来の大仕事もやってのけました。「逃走中」については、自分たちが企画し説得を試みた内容が適切かどうかを実証するために、休日に６年生だけが登校し、お試しの機会をもちました。

それと同時に、他者を説得する際に、論理で人をねじ伏せたり言いくるめたりするのではなく、相手の反論を予想して改善や回避のための策を講じたり、懸念されるべきところは認めた上で選択肢を複数設けてその緩和に努めたりする子どもたちの真摯な姿に、新しい文化が根付く予兆を感じることができました。

それは「説得の文化」です。子どもも大人も真剣になってこれからの附属小学校を語り合い、互いに納得できるところを探りながら説得し合うつながりが、ひいては人間関係の

改善につながっていき、いじめや不登校などを未然に防ぐ力にもなっていく。そのような展望を得ることができました。

夏休みが明けるといよいよ 150 周年を記念するイベントが目白押しです。この夏休みも、そのための充電期間と捉えて様々な経験を積んでほしいものです。

困ったらタクシーの運転手さんに助けてもらってね

ある日の下校指導中、３年生の子どもたちが「バイバーイ」と空に向かって手を振っている姿を見かけました。何をしているのかと近寄ると、子どもたちの目線の先に小さなモンシロチョウが舞っています。そのどこかたどたどしい羽ばたきに、３年生の教室で羽化を待ったチョウが旅立ちの日を迎えたのだと察しました。

卵の時期からその様子を観察し、どんなチョウが生まれるか、サナギの中でどんな夢を見ているだろうかなどと想像を巡らせ我が子のように育てたチョウです。

子どもたちは４年生になると「白いぼうし」という国語の教材に出会います。その物語の中で、白いモンシロチョウはタクシーの運転手の松井さんと出会い、男の子の帽子の中から救出されます。来年度の国語の時間に、ぜひこの経験を思い出してほしいものです。チョウを育て放った経験がどんなに物語の解釈を豊かで個性的にするだろうと、楽しみでなりません。

非日常で発見する新たな自分・仲間 ～6年修学旅行・5 年自然体験学習～

６年生は函館へ、５年生は岩城少年自然の家へ、それぞれ宿泊を伴う行事に参加しました。グループ決めや活動内容の計画・立案など、大変な準備を経ての行事です。

「誰とでも緩やかにつながる」という学校経営の重点を踏まえ、「仲良しグループだけで物事を進めてしまわない」という前提がありつつも、互いの本音と建前が交錯した話合いが行われるのはいつの時代も同じです。我を通せばたくさんの人の安全が脅かされ、自分を引っ込めすぎると楽しさが損なわれるという状況下で、一人一人の公共心と協調性が試される場でもありました。

どちらの学年も、「もっと泊まりたい」「もう一度やり直したい」という声が聞こえてくるほど、成果と課題が見えた経験となりました。これからの学びで、またひとつ成長した姿を期待しています。